

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570900369		
法人名	医療法人社団村重医院		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山口県山陽小野田市大字有帆真土535－118		
自己評価作成日	平成30年12月17日	評価結果市町受理日	令和 1年 6月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成31年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

イベント係が中心になって地域の行事、イベント等に参加し、地域密着を意識した支援を行っている。利用者に寄り添い思いを汲み取ることで利用者の希望にそったケアができるよう努めている。運動会やクリスマス会等施設内のイベントやレクリエーションにも力を入れており、利用者に季節を感じてもらい、楽しんでいただけるよう努力している。花が好きな利用者が多い為今年は花博へ外出支援を行った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会総会や清掃活動に管理者や職員が参加しておられる他、自治会の回覧板で地域の行事の情報を得ておられます。地元の神社へ利用者と職員と一緒に初詣に出かけられて甘酒の接待を受けられたり、小学校の学習フェスタ(茶会、踊りなど)や有帆地区の敬老会にも参加しておられるなど、地元の人々との交流に取り組まれています。子ども会の子どもが来訪されて、利用者と一緒に七夕飾りやゲーム等のレクリエーションを一緒に楽しめたり、おやつと一緒に食べられるなど、子ども会との交遊を続けておられます。隣接のディサービスセンターでのカラオケ大会に出かけられる他、ボランティア(お茶会や日本舞踊)の来訪もあり、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるように取り組まれています。管理者は、職員の声に耳を傾けられ、提案などを活かす取り組みに努められるとともに、代表者も訪問診療事等に職員と話し合う機会をつくれ、利用者の支援、職員の勤務状況、希望休、研修などの他、勤務体制、職場環境等についての意見を聞く機会を設けられています。利用者との日常の関わりの中で生まれる職員の気づき等も運営に取り入れられるなど、働きやすい環境づくりに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ毎朝の申し送り時に唱和し、職員全員で共有している。職員一人ひとりが理念の意味を理解しており、日々の実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を事業所内に掲示している他、事業所だよりやパンフレットにも記載している。毎朝の申し送り時に唱和し、職員一人ひとりは理念を理解し、日常業務の中で利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるサービスについて話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、総会、清掃活動、地域パトロール等に参加している。地域のイベントに利用者と一緒に参加したり、子供会との交流行事も毎年行っている。	自治会に加入し、管理者や職員は総会や清掃活動に参加している。自治会の回覧板で行事の情報を得て、地元の神社に初詣に行き甘酒の接待を受けたり、地区の敬老会への参加や小学校の学習総合フェスタ(茶会、踊りなど)に参加して交流している。子ども会の子どもの来訪があり、利用者と一緒にゲームやレクリエーションを楽しんだり、七夕飾りをつくったり、おやつと一緒に食べたりして交流を楽しんでいる。ボランティア(茶会、日本舞踊)の来訪や隣接のディサービスセンターの利用者と一緒にカラオケを楽しんだり、散歩時に近隣の人と挨拶を交わしているなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に地域の方に施設での支援の方法、認知症についての説明等行っている。地域の子供会が来苑時紙芝居形式にて認知症の説明を子供にもわかりやすく行ったり、地域の方へ理解していただけるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行う事で個々が自己を振り返る事ができ、管理者は施設全体の問題点等理解でき、全職員と共有し改善に取り組むことができる。必要があれば代表者へ報告している。	管理者は評価の意義について職員に説明している。自己評価をするための書類を全職員に配布し、項目ごとに記入して話し合いをし、管理者がまとめている。外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、全家族に便りを添えて運営推進会議の案内状を出すことで、家族が関心を持って参加することが増えてくるなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービス内容、施設での問題点等の報告を行い、意見交換を行っている。外部の方々の意見を聞くことで気付ける事もあり、その意見を職員全員で共有し、サービスの向上につなげている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者状況、行事予定、行事報告、ヒヤリハット、事故報告書、併設施設合同の昼夜想定避難訓練、避難経路の確認、認知症の紙芝居での勉強会などについて報告し、意見交換をしている。家族から利用者全員が参加しての避難誘導の確認(状況、時間等)をしてはとの意見があり、避難訓練を実施して見学をしてもらっているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段から電話や運営推進会議の際、問題点、疑問点等相談している。他にも市で行う認知症ネットワーク会議等参加し、話し合いを行っている。	市担当者とは、運営推進会議時に実施した避難訓練について意見や情報交換をしている他、直接出向いたり電話で、相談して助言を得たり、情報尾交換しているなど、協力関係を築いている。認知症ネットワーク会議参加時にも情報交換をしている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時の他、地域ネットワーク会議時に情報交換したり、電話で利用者状況について話しているなど、連携している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回行うミーティング時に勉強会を行い身体拘束についての理解に努めている。今年度より身体拘束廃止委員会を設置し、2ヶ月に1回話し合いを行い、身体拘束廃止に努めている。それ以外でも必要に応じて随時職員間で話し合い拘束のないケアを行っている。	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回実施し、職員間で話し合いをしている。月1回のミーティング時に身体拘束の内部研修を実施し、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に施錠はしないで、外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけている。スピーチロックについては管理者や計画作成担当者が指導をしている他、職員間でも話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行うミーティング時に勉強会を行い高齢者虐待についての理解に努めている。日々の業務の中で利用者の身体観察を行い、利用者の変化等に気付けるよう注意している。管理者は職員の変化にも気付けるよう注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料があり、全職員が共有できるようにしており、月1回のミーティング時に勉強会を行い理解に努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族が納得いくまで十分に説明を行い、変更事項等あった際には、代表者、管理者より家族に説明を行い、理解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口を掲載し、その旨を契約時に家族に説明している。普段より、目安箱の設置、電話の際や、運営推進会議時等家族の意見を聞き、日々の業務の中で活かせるよう努めている。	契約時に相談や苦情受付体制、第三者委員、処理手続き等を重要事項説明書に基づいて家族に説明している。面会時や運営推進会議時、電話、事業所だより送付時、受診結果送付時等で、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに対する要望はその都度、対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から業務の中で職員の意見を聞くようにし、その意見を職員全員で共有し業務に活かせるよう努めている。代表者は訪問診療時や定期受診の際に変わった事等ないか聞いてくれている。月1回行われる院内会議にて各部署の状況を報告し、意見交換を行って運営に活かせるよう努めている。	管理者は、月1回ミーティング時やカンファレンス、日常業務の中で職員からの意見や提案を聞くように努めている他、日常的に職員に声かけをして意見や提案を言いやすい雰囲気づくりに努めている。代表者は、訪問診療時や定期受診時に機会を設け、声かけをしている。勤務状況や希望休、研修、勤務体制については職員間で話し合いをして反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日頃から管理者を通じ各職員の勤務状況、努力等理解に努めてくれている。時には代表者が直接職員に声を掛けやりがいにつながるよう努めてくれている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者を通じ、各職員のケアの仕方、力量を把握し、個々に合った研修の受講を進めてくれている。法人内でも外部から講師を招き研修の機会を設けてくれている。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階や希望に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は実践リーダー研修、高齢者施設リスクマネジメント、カウンセリング技法等に16回参加している。法人研修は年3回、外部講師を招いて、薬、認知症、接遇を実施して、内部研修時に復命し、共有している。内部研修は、月1回のミーティング時に、ケアプラン、プライバシー保護、権利擁護、リスクマネジメント等を実施している。新人研修は管理者がマニュアルに基づいて説明後に、管理者や先輩職員の指導の下、日常業務の中で働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に登録しており、勉強会や交流会等に参加し、同業者との交流の機会をもつ事によってサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より家族やケアマネに聞き取りをし、十分な情報を入手したうえで入居時に関わることで本人の不安や要望等聞き出せるようにし、安心して生活できるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、入居申し込み時点より家族の要望、悩み、不安なこと等傾聴するよう心掛けています。入居後も来苑時や電話の際に要望等聞くよう努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、入居申し込み時より家族の要望をしっかりと聞いたうえで何が必要かを考え家族へ助言できるよう努めています。必要に応じては他のサービス利用も視野に入れたうえで支援できるよう努めています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で介護する、されるの関係ではなく、家庭的な楽しい雰囲気のもとで共に過ごすことにより共に喜び合うことができ、共に支え合っていくことができるような関係作りを心掛けています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には家族へ連絡し、職員が一方的に決めるのではなく、家族の意向も聞いたうえで決定し、可能であれば参加していただき共に支援していける環境作りに努めています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に行っている外出支援の際に、馴染みの公園や海、以前住んでいた家の付近等ドライブしたり馴染みのスーパーでの買い物、家族との一時帰宅等支援しています。友人や親戚等来苑時の面会、電話や手紙等馴染みの人や場所が途切れないよう支援しています。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、近所の人などの来訪がある他、電話の取り次ぎや手紙での交流を支援しています。、移動販売車で買い物、馴染みの公園、以前住んでいた家、懐かしい場所(きらら浜公園など)の他、家族の協力を得ての外出、一時帰宅、買い物、食事会、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係性を理解し、気の合う利用者同士と一緒に過ごせるよう支援している。日々の生活の中で家事や簡単な作業等利用者同士が協力して行えるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じては移り住む先へ利用者の情報を詳しく伝え、環境の変化が最小限で済むよう心掛けている。家族へその後の経過を聞き、必要であれば相談にもものるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを十分にとり、信頼関係を築くことで会話の中から利用者の思いを汲み取れるよう努めている。アセスメントを行い職員間で情報の共有をし、利用者本位の支援になるよう心掛けている。	入居時の基本情報(趣味、家族構成など)や独自のアセスメント表、人生表などを活用している他、日常の関わりの中での利用者の様子、気づき、言動をケース記録や各個人ノートに記録し、思いや意向の把握に努めている。計画作成担当者と利用者を担当している職員でセンター方式のシートにまとめ、職員間で共有している。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。買い物に行き、好きな物を選んで買いたいと思っている利用者の思いを大切にして、移動販売車まで出向いて買い物ができるよう支援をする他、お酒が飲みたいと思っている利用者には食事の時に時々お酒を提供されるなど、その人らしい暮らしを続ける支援に取り組んでいる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を家族に話を聞きながら記入していただくことでこれまでの暮らしの把握に努めている。その内容をもとに日々の会話の中で失礼のないよう話を聞いている。これまでのサービスの利用については他事業者、ケアマネより情報を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で利用者としっかり関わるこ とで利用者のできることを見つけることがで き、それを記録に残すことで職員間で情報 の共有をして把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	月1回のケアカンファレンスの中で担当職 員、計画作成担当者が中心となり話し合い をし、家族の思いや意向を反映させた介護 計画書を作成している。変化があれば、必要 に応じて主治医、看護師の意見を聞きその 都度話し合いを行い見直しをしている。	計画作成担当者と利用者を担当している職 員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、 本人や家族の意向、主治医や看護師の意見 等を参考にして話し合い、介護計画を作成し ている。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ 月毎の見直しをしている。利用者の状態の変 化や要望に応じて見直しをし、現状に即した 介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で知り得た事、気づき等を 記録に残す事で職員間で情報を共有するこ とができ、実践に活かせるよう努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者のニーズに合わせた支援がで きるようにしている。本人や家族の状況に応 じて都度対応できるよう職員間で情報の共 有を行い支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望に沿って地域のスーパーへ買 い物、図書館の利用、地域の子供会との交 流、ボランティアの受け入れ等利用し、日々 の生活を楽しんでいただけるよう支援してい る。運営推進会議で地域の関係者の方を招 き協力を得られるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の定期受診、状態に応じては臨時受診、訪問診療を受けるよう支援している。24時間医療連携体制がとれ、緊急時は主治医の指示を仰ぎ対応している。	本人、家族の同意を得て、利用者全員が事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の定期検診がある他、週2回の訪問診療や月2回の訪問歯科診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診前日には「指示伺い書」で利用者の状況をFAXで知らせている。受診結果は電話や面会時、事業所より送付時に家族に知らせている。職員間ではカードックスで共有している。夜間や緊急時には、24時間医療連携体制となっており、主治医の指示を仰いで対応しているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で利用者の変化に気付いた際には、職場内の看護師に報告し指示を仰いでいる。必要に応じて主治医へ報告し受診が受けれるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医より紹介を受け、入院となる。その際入院先の医療機関へ情報を提供し、その都度医療関係者と連絡を取り情報交換している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」について事業所の対応について説明し、家族の意向を聞いている。実際に重度化、終末期には主治医、家族と相談し方針を決め、職員間で共有し支援している。	契約時に「利用者の重度化した場合における対応に関わる指針」を基に、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	AED設置ステーションであり、職員は救急救命講習を受講しており、月1回のミーティング時の勉強会でAEDの使用方法や、緊急時の対応、応急手当、初期対応の実践を看護師指導のもと行っている。	事例が生じた場合は、事故報告書にその日の職員が緊急対応、事後対応策を記録し、回して共有し、月1回のミーティング時に再検討をしている。ヒヤリハット報告は、対策や課題を記録して、回覧している。他の職員が対策を記入した場合は、再検討しているなど、利用者一人ひとりの状況に応じた事故防止に努めている。職員は、医療に関するマニュアル、緊急時対策、対応マニュアルに基づいて内部研修で、AEDの使用訓練、骨折、出血、下痢、嘔吐、窒息、誤嚥等、緊急時の対応について研修をしているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の事業所と合同で年2回避難訓練を行っている。運営推進会議で災害について話し合いをし、地域の方との協力体制を築いている。地域の消防訓練に参加したり運営推進会議時に避難訓練を行い訓練の様子を地域の方、家族、市の職員の方にみていただき、意見交換し、全職員に共有し今後活かしている。	年2回、併設施設と合同で昼夜想定避難訓練(消火、通報、避難誘導など)を実施している。地域の避難訓練には管理者が参加して地域の人に事業所の説明をしている。運営推進会議時にメンバーが避難訓練を見学して話し合い、実際に利用者と一緒に避難訓練を実施してはという意見があり、今後実施することを検討している。事業所の連絡網に自治会長の名前を入れることについて了解を得ているが、緊急時の地域との連携までには至っていない。事業所としての非常食や防災用具等の確保はしている。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回のミーティング時に勉強会を行い人格の尊重、プライバシーの保護について全職員が把握できている。利用者への言葉かけや対応についても勉強会を行い、業務の中でも不適切な対応に関して注意、指導している。	プライバシーの保護、権利擁護について内部研修を実施し、職員は理解をして、利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録などの情報の取り扱いや管理に留意するとともに、守秘義務についても理解をして守っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でコミュニケーションをしつかりとり利用者との信頼関係を築くことで、会話の中から利用者の思いを汲み取り、できる限り本人の希望に沿った支援を心掛けている。本人にできる限り選択してもらうよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調、気分等考慮した上で一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。利用者からの希望にできる限り沿えるよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際には服を利用者と一緒に選んだり、お化粧をしたりしている。訪問美容で個々の利用者の希望に沿ってカット・毛染め・パーマ等行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で家事(お盆拭き、テーブル拭き、盛り付け等)を職員と一緒にやっている。昼食時には利用者と一緒に食事を摂り楽しい雰囲気作りを心掛けている。	昼食と夕食の副菜は法人の厨房からの配食を利用し、形状などの工夫をしている。朝食のご飯と汁物は畑で採れたオクラやキュウリ、さつま芋などの野菜を使って事業所で調理をしている。利用者は盛り付け、テーブル拭き、食器洗い、盆拭き、下膳などできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルで同じ物を食べている。季節の行事食(おせち、節分の鰯、土用の鰻など)、月1回の赤飯、月1回のおやつづくり(ぜんざい、白玉団子、ホットケーキなど)、個別の夕食(回転寿し、ファミリーレストラン、ハンバーガーなど)、誕生日には利用者一人ひとりの希望に応じて、夕食やケーキで祝っている他、家族の協力を得ての夕食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し利用者一人ひとりの摂取量を全職員が把握できるようにしている。利用者の状態に応じてその都度話し合いを行い、食事形態や食器、栄養補助食品等検討して、個々の利用者に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きの声掛けを必ず行い、歯磨きが困難な利用者は職員と一緒にやっている。歯ブラシも個々の利用者の状態に応じて選んでいる。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握する為記録に残し、それに合わせてトイレの声掛けを行っている。失敗が増えた際には職員間で話し合い、声掛けの間隔を増やしたりしてできる限り失敗のないよう自立に向けた支援を心掛けている。	バイタル表の中の排泄表を参考にして排泄パターンを把握して、時間を見計りながら、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録し全職員が把握している。排便のパターンに応じて食べ物(牛乳、ヨーグルト、バナナ等)を提供したり、運動の機会をもつ等できるだけ自然排便を促すよう支援している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限り個々の希望に沿えるよう1日通して入浴できるようにしている。入浴剤を入れたりして入浴が少しでも楽しめるよう支援している。	入浴は毎日、10時から11時30分までと14時30分から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週2回は入浴できるように支援している。利用者の体調に応じてのシャワー浴や清拭、足浴などの支援をしている。入浴剤、柚子湯、肌にやさしい石鹸を使ったり、職員と一緒に童謡や歌謡曲を歌ったり、昔話をしているなど、入浴を楽しめる工夫をしている。入浴したくない人には、言葉かけの工夫や時間の変更、職員の交代など、個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間共に個々の希望に応じて好きな時に休んでいただくように支援している。意思の疎通ができない方は、その日の様子や状態に応じて休んでいただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を服用しているか、薬の目的、副作用、用法等全職員が把握しており、服薬の際には十分な確認を行い、薬がきちんと飲み込めたかまでの確認を行っている。利用者の状態に変化があった際は看護師に報告し必要に応じて協力医療機関へ報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に家族から生活歴、趣味等を聞き、個々の利用者に合った支援を行っている。日々の生活の中から得意分野を探り、それを活かす事ができるように支援している。買い物や外食、ドライブ等時には外へ出て気分転換の支援を心掛けている。	事業所の盆踊り、運動会、節分祭、七夕会、敬老会、誕生日会、ディサービスセンターでのカラオケ、ボランティア(日本舞踊、お茶会)、子ども会との交流、ラジオ体操、ぬり絵、折り紙、そろばん、編み物、風船バレー、花札、カルタ、新聞、雑誌、絵本を読む、貼り絵、ちぎり絵、生け花、歌を歌う、お手玉、文字合わせ、ボール蹴り、食器洗い、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、片付け、おやつづくり、野菜の収穫、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除(洗面台拭き)など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩をしたり、買い物、ドライブ、地域のイベントへの参加、季節ごとに、花見や紅葉を見に出掛けたり外出の支援を行っている。誕生日には本人の希望に沿って外出の支援もしている。花が好きな利用者が多い為、今年は山口県で開催された花博へ外出した。	近隣の散歩、ウッドデッキでの外気浴、季節の花見(桜、コスモス、紅葉)、小学校の合同フェスタ、地区の祭りや敬老会、保育園の運動会、サンパークの七夕飾りの見学、江汐公園、竜王山、今富ダム、以前住んでいた家、きらら浜、山口花博、熊野神社の初詣、外食などに出かけている他、家族の協力を得ての盆や正月の一時帰宅、法事への参加、外食など、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は本人の希望があれば家族へ確認したうえで所持してもらっている。買い物希望、他にも施設へ来る移動販売車での買い物等買いたいものを買ってもらうように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては入居時に家族へどこまでを取り次いで良いかを決めて、トラブル防止に努めている。それをふまえて電話の取り次ぎを行っている。手紙の希望があっても大丈夫なように便箋、封筒はいつも用意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのあるものを置いて家庭的な空間づくりを心掛けている。、玄関やリビングには季節感のあるものを飾って季節を感じてもらえるようにしている。リビングの窓が大きく外を眺めることができ、天気の良い日には外のウッドデッキへ出る事もできる。	共用空間は明るく、大型テレビの前には大きなソファを配置し、廊下にもソファを置いて、利用者がゆったりとくつろげる居場所となっている他、畳のコーナーもある。玄関やリビングには季節感のある物を飾り、壁面には利用者の作品や行事の写真、干支の貼り絵、手づくりの日めくりなどが飾ってある。廊下には本棚を置き、ぬいぐるみや猫の置物、本を置いている。リビングに加湿器を設置し、温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置いており、ひとりになりたい時や、気の合った方同士過ごしたい時などにくつろげるようにしている。テーブルの配置も気の合った利用者同士が過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や寝具、生活用品、希望があればご仏壇等持参してもらい、できるだけ生活環境が変わらないようにしている。希望があれば床に畳を敷くこともできるようにしている。	好みの寝具、タンス、テレビ、机、椅子、ソファ、仏壇、日用品、化粧品などの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、カレンダー、貼り絵の作品などを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりが設置しており安全に移動ができるようになっている。各居室には名前のプレート、トイレの表示等することで場所の認識ができるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームこもれび

作成日：令和 元 年 6 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変時や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の訓練は月1回行う勉強会の際に行っているが、夜勤がある勤務の為参加できない職員もいる。	職員全員が急変や事故発生時の初期対応、応急手当に対応できる実践力を身につける。	勉強会の回数を増やし職員全員が参加できるようにする。対応が不安な職員が居れば個人的に看護師に指導を行ってもらい、外部研修等の参加を促すようにする。	2年間
2	36	避難訓練を年2回行っているが、利用者全員を避難させる事はできておらず、消防署の方も呼べていない。 地域の連絡網がないため協力体制が曖昧である。	実際の火災時、災害時に備え、利用者が安全に避難できるよう内容の濃い訓練を行う。 自治会との関係性を築き協力体制の構築に努める。	訓練時利用者全員を避難させる。消防署の方にも訓練を見て頂き助言をもらう。 地域の消防訓練に参加する。 運営推進会議に自治会の方を招き自治会との関係性を築く。	2年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。